

古事記読書会「弥栄(いやさか)の会」第6回 報告書

開催日 第4土曜日 2019年3月30日(土) 読書会 9時半～12時、昼食会 13時～15時

開催場所 中日本建設コンサルタント(株)東京支社 会議室(四ツ谷)

参加者 8名(会員6名、サポーター1名、会員のご家族1名)

内 容

(1)参加者自己紹介

(2)本日の朗読の進め方(リーダー)

今回はもう一度「第四集 受け日(うけひ)」を味わいます。読書の後には、五番町児童遊園から四ツ谷駅までの桜を楽しみ、丸の内線で四ツ谷から茗荷谷まで移動後「播磨坂」で桜を楽しみ、イタリアンレストラン「コパン」で昼食会をします。

(3)朗読

阿部國治著・栗山要編「新釈古事記伝 第4集 受け日」を車座になり全員で順番に輪読。約2時間半を休憩無しに、節ごとに交代。昼食会で感想を共有した。

(4)読後感

○「受け日」で特に印象に残った「なきいさち」に関しての感想を書かせていただきます。

「なきいさち」つまり目の前にあることに真剣に取り組むことなく、頭を使わず、不平不満を抱いて泣きわめくことをしてはいけないということは、客観的に見ると当たり前のことのように感じるのですが、自分自身のこととなると簡単なことではないように思います。自分が「なきいさち」をしているときには、なかなか自分が「なきいさち」をしているということに気づくことも難しいのではないかと思います。振り返ってみると、自分は「なきいさち」をしていたなと思う時に、そのことに気づかせてくれたのは、親や先生や親しい友人でした。須佐之男命にとって伊邪那岐大神が「いかり」で自分の「なきいさち」に気づかせてくれたように、「なきいさち」を怒ってくれる人を大切にしたいと思いました。

○前回はあまり感じませんでしたが、高天原と黄泉国は神様のいるところで現し国は人間のいるところですが、現し国がなければ高天原も黄泉国も意味がない、としているところが、いろいろなものの表裏一体を連想できて感慨深いです。また、「失望せず優越感も持たずひたすら努力する」ということが、私には身につまされる思いで、2回読んだためか、今回、すっと気持ちに入ってきました。

古事記に書かれていることが日々の糧になりつつあります。

○天照大御神の<稜威の雄叫び>によって、須佐之男命の心が磨き上げられました。須佐之男命は天照大御神の日の光に照らされて、これから自分は現世に戻ったらどのような活動をすべきか考えました。答えは自分でみつけるものなんだなと、なかなか答えが出ないことだらけですが、努力しようと思いません。

そして、ただ、ひたすらに、<うけひ>に努めることで、それがうるわしい(善い)ことなのかは、自分が判断するものではないとありました。すぐに成果や評価を求める、今のこの社会に大切な視点だと思います。

仕事の受け持ちとは、<うけひもち>なのだそうです。自分の中の<ひ>と相手から受ける<ひ>の、互いの<ひ>が頷き合うことなのです。そのためには、自分の中にある<ひ>に気づき、相手の

<ひ>を引き出すことが、仕事の本質であることを、教えていただきました。

○今回輪読したパートで最も印象深かったキーワードは「受け日」です。須佐之男命は、天（天照大神）からの光を受けることで、自分の中にある光を輝かせます。人間社会に当てはめれば、他者との協働、共感によって初めて自分もいきいきと輝くことができる、という教えだと読みました。

人間は生まれながらに原罪を背負っているとするキリスト教思想と、誰もが自らの中に光（の可能性）を持っていると考える古事記の思想。「よりよく生きる」という最終目標は同じでも、スタートの立ち位置が対照的であることが、大変興味深く思われました。

※2019年度の開催計画を示します。

4月はお休み

5/25

6/22

7/27

8/24

9月はお休み

10/26 ←キャリアセミナー@東京ウィメンズプラザの日程の関係で第3週 10/19 になる可能性あり

11/23

12月はお休み

1/25

2/22

3/28

次回予定

2019年5月25日(土)9時半～12時@中日本建設コンサルタント(株)東京支社 会議室

今回は、更にもう一度「第四集 受け日(うけひ)」の後半を味わいたいと思います。

以上

2019年3月30日(土)「弥栄の会」



読書会の様子



市ヶ谷のお花見



播磨坂のお花見



昼食会の様子



播磨坂のお花見